

Q5

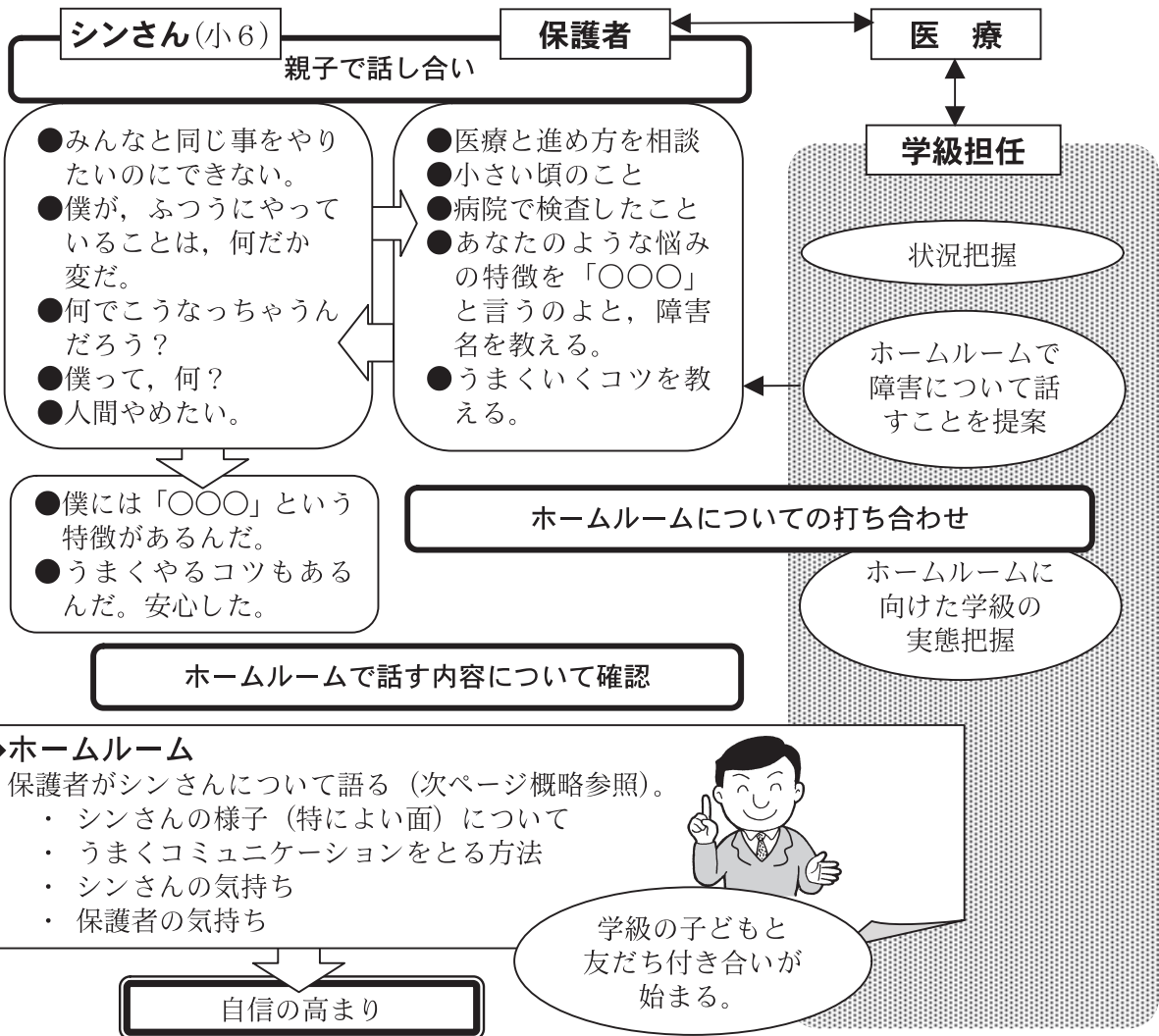
本人や周囲の子どもたちが 障害について理解するためには？

まずは
ここから



- 開かれた学級であることを前提とし、以下の点を確認します。
 - ・子どもに障害の理解ができるか。
 - ・学級や学校に受け入れ体制があるか。
 - ・保護者も含め、障害を受け入れる前向きな姿勢があるか。
- 保護者との連携や学級づくりを丁寧におすすめします。

友だちの心ない一言を見過ごさず、シンさん親子も学級も真剣に取り組んだ事例を紹介します。



【キーポイント】 本人や周囲への障害理解を進めるには、次の条件が必要になると思われます。① 子どもに障害についての理解力があること、② ごく親しい人へのみ知らせること、③ 学校の受け入れ体制があること、④ 障害名を保護者が理解し、プラスのイメージがもてること、等

この事例は好条件が重なり、比較的広い範囲に障害について知らせることができた稀な例です。実際にはそれぞれのケースに応じて、医療と連携を深めながら、慎重に進めたいものです。また、開かれた集団となる学級経営は欠かせない前提です。

ホームルームでの保護者の話（概略）

はじめに、我が子の悩みの原因になっていることについてお話しします。

幼い時から集団で何かをすることが苦手で、行方不明になることがよくありました。いろいろな病院で、いろいろな検査をしてもらいました。その結果、悩みの原因が「高機能自閉症」というものであることが分かりました。

「自閉症」というのは、人間の体と脳を結んでいる中枢神経というものが思うように結ばれていないことがもとになっているそうです。教科の学習はみんなと同じようにできるものが多いので、「高機能」と呼ばれるようです。更に、脳は、記憶・感覚のもとになる右脳と思考・判断のもとになる左脳とで成り立っています。シンの場合は、左脳の働きが弱いようです。そのため、漢字を覚える・絵をかく・ギターを弾くなどのことは得意なのに、物事についての善し悪しを判断することは苦手なのです。また、コミュニケーションをとりながら人間関係をつくっていくことが苦手です。

もう少し、特徴をお話しします。まず、こだわりが強いことです。自分の気に入っていることは何度も繰り返します。今は何だと思えますか。テレビ番組なんですよ。それから、みんなの関心を引こうとしておかしい行動をとることがあります。悪気はないんですよ。みんなの周りをウロウロしていることありませんか。輪の中に入りたいたいけど、何て言ってもいいか分からないので、声を掛けてくれるのを待っているんですよ。

よいところもあります。例えば、毎日欠かさず夜の米とぎをしてくれます。きちんと決まったお手伝いのプロです。それから、兄弟の面倒をよくみます。お出掛けした時に「疲れた」とつぶやいた弟を自分からおぶっていました。なかなかできることじゃありませんよね。お恥ずかしい話ですが、夫婦げんかをしていても、シンに言われると、すぐに仲直りできちゃうんですね。

私たちは、こんなシンのお陰で、苦労はあっても、とっても幸せな毎日を過ごしてきました。

ですから、シンにも幸せを感じる生活を送ってほしいと願っています。できる範囲でいいので、みんなと同じ教室で、みんなと仲良くやることが幸せにつながるのだと思っています。

みなさんに迷惑を掛けてしまうこともあるかもしれませんが、シンに優しい気持ちで仲良くしてもらえるとうれしく思います。よろしくをお願いします。

実践の背景 1：学校での配慮

- ◆日頃から障害についての話をしていました。
- ◆人権教育を柱に据えた学級経営の積み重ねをしてきました。
- ◆班長がシンさんに理解のある子どもになるよう、班替えは、慎重に行いました（クジ引きにしない）。
- ◆学級連絡網では、シンさんに理解のある家庭を前後に配置しました。
→保護者間での気軽な情報交換にもつながりました。

実践の背景 2：保護者が心掛けてきたこと

- ◆保護者会で、子どもの様子を話す機会を積み重ねました。
→保育園の卒園間際、1年保護者会、4年（学級替え後）保護者会、父親参観日、学級父親の会等
「他の子どもと発達の仕方が違うので、他の保護者の皆さんにとっては共感できる悩みではないかもしれませんが、大勢の方々に分かっていた良かったのです」

シンさんを支える地域の保護者と子どもたちが多くなる